

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 湯川 慶子

本研究は、主治医と患者の間でコミュニケーションが困難なテーマのひとつである代替医療を取り上げ、そのコミュニケーション関連要因を明らかにすることを目的として、慢性疾患患者を対象に、面接調査(研究1)および質問紙調査(研究2)を実施している。特に、患者の視点から、代替医療の利用背景、主治医の対応への患者の不安感、実際に経験した主治医の対応を把握し、患者の伝達の批判的ヘルスリテラシーに着目し、代替医療の利用をめぐるコミュニケーション関連要因の解析を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 患者は、代替医療について、安心感、希望、副作用の少なさなどに期待し、利用を通じ、知識の増加、症状改善等の効果を経験していた。
2. 患者の伝達の批判的ヘルスリテラシーは、主治医への開示、相談希望と関連していた。
3. 患者が経験した主治医の対応のうち、情報提供や共感などは、患者の主治医への相談希望を高めるものであり、主治医の共感的対応が主治医・患者間のコミュニケーションを促進することを示した。他方で、効果の否定などの主治医の否定的対応と患者の相談希望との関連は認められなかった。
4. 患者の伝達の批判的ヘルスリテラシーは、利用前の安全確認や副作用への適切な対処、問題や悩みについて主治医へのサポートを求めて、獲得する上で、重要な役割を果たし、代替医療の安全な利用にも資することが示された。
5. 今後の代替医療をめぐるコミュニケーション促進と安全な利用には、現場のコミュニケーション環境を整え、主治医の配慮ある対応、患者の伝達の批判的ヘルスリテラシーの向上、地域でも患者を支えていくことが重要であると示唆された。

以上、本論文は代替医療の利用をめぐる主治医・患者間のコミュニケーションにおいて、患者の代替医療の利用背景や価値観に配慮した主治医の対応と、患者の伝達の批判的ヘルスリテラシー向上への働きかけの重要性を示したものである。本研究は、代替医療に限らず、医療情報一般についての主治医・患者間のコミュニケーション促進にも重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。